



令和3年度

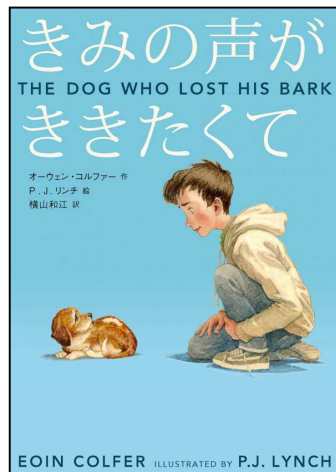
## 茨城県優良図書紹介（小学校中学年向け）



### 『セイギのミカタ』

佐藤まどか 作、イシヤマアズサ 絵(フレーベル館)

小学4年生のキノは、はずかしいと顔が真っ赤になるのがなやみです。目立ちたくない、ふつうでいたいのに、アイツがやってきて…。ほんのちょっとした勇気があれば何か変わるかもしれないと思わせる物語です。



### 『きみの声がききたくて』

オーエン・コルファー 作、P.J. リンチ 絵、  
横山和江 訳 (文研出版)

心にきずをおい、ほえることが出来なくなった子犬と、父親とはなれ声を出すのをやめた少年。時間をかけて親友になったふたりは「きみの声がききたい」とねがうようになります。



### 『あるヘラジカの物語』

星野道夫 原案、鈴木まもる 絵・文 (あすなろ書房)

2頭のヘラジカは生きるために戦い、角をからませて死んだ。でも、それは自然の中でたくさんの命が生きることにつながった。写真家・星野道夫の写真から生まれた大自然のドラマと生命のつながりの物語です。



## 『かみさまのベビシッター』

廣島玲子 作、木村いこ 絵 (理論社)

商店街の福引きで当たった景品はなんと「かみさまのたまご」でした。生まれてきたのは、ねこのような、フクロウのような、よくわからない生き物で…。かみさまのお世話係になった幸介の願いはかなうのでしょうか？



## 『へんくつさんのお茶会』

楠章子 作、井田千秋 絵 (学研プラス)

へりくつばかりいう「へんくつさん」のパン屋さん。そんなパン屋さんをおとずれるいろいろなお客さんとのエピソード。すなおになれないへんくつさんのやさしさで心があたたまるお話です。



## 『ゆりの木荘の子どもたち』

富安陽子 作、佐竹美保 絵 (講談社)

いまは老人ホームとして使われている「ゆりの木荘」。げん関ロビーにある古時計のはりがぎゃく回転して、おばあさんたちは時をこえて子どもにもどってしまいます。この時計こそ、この家にかけてた魔法を動かすためのスイッチだったのです。



## 『サイコーの通知表』

工藤純子 著 (講談社)

通知表でぼくらの何がわかるの？  
部下が上司の成せきをつける会社があるなら、小学生が先生の通知表をつけたっておかしくない！クラス一丸となって、担任の先生の通知表をつけることにしました。



## 『おじいちゃんとの最後の旅』

ウルフ・スタルク 作、キティ・クローザー 絵、  
菱木晃子 訳 (徳間書店)

「もう一度あの家がみたい」おばあちゃんとくらしした島にもどりたいと願うおじいちゃんのために、「うそつきの天才」のボクは病院からおじいちゃんを連れ出すある計画を立てました。おはなしの中のおそはユーモアたっぷりです。



## 『虫ガール ほんとうにあったおはなし』

ソフィア・スペンサー 文、マーガレット・マクナマラ 文、  
ケラスコエット 絵、福本友美子 訳 (岩崎書店)

小さいころから虫にむちゅうのソフィア。  
でも、虫が好きなことでいじめにあい、虫をお休みします。  
小学生の虫ガールが好きなことをつらぬくむずかしさ、それを乗り越える成長をえがく一冊です。



## 『ピーターラビットのふるさとをまもりたい ビアトリクス・ポターものがたり』

リンダ・エロビッツ・マーシャル 文、イラリア・アービナティ 絵、  
おびかゆうこ 訳 (廣済堂あかつき)

「ピーターラビット」を生み出したのは、自然いっぱいのいながが大好きな女の子ビアトリクスでした。ビアトリクスは絵本だけでなく、いまにのこるすばらしい仕事をなすとげました。